

瑞宝中綬章

みやもと 宮本みち子さん

放送大名譽教授



## 家族と社会の変化読み解く

日本国憲法が施行された1947（昭和22）年に生まれた。憲法は個人の尊重をうた

平等に関心を持ち、研究者の道へ。若者を巡る政策研究の第一人者になった。

うが、長男や嫁といった立場で生き方が決まる家制度の名残は戦後も続き「決して良いとは思えなかった」。人権や

「底支えしてきた」社会の転換は、90年代以降に明確になったと言う。より自由な生き

方ができるようになった半面、非正規雇用など不安定な環境の人が増えた。引きこもり、失業といった課題を社会や経済と結び付けて読み解き、支援団体と連携して実践にも参画。「研究だけでは見えてこない」若者の困難を政策提言に生かした。

近年は独り暮らしの中年世代に焦点を当てる。家族や企業の機能が弱まって、代わりになるはずの社会保障のあり方は大きく変わっている。「こぼれていく人たちへのセーフティネットをどう張るか」を考え続ける。松本市出身、千葉市在住。78歳。